

1.製品型番及び名称

本製品名称は、.040 II/.070 II HDハイブリッドI/Oコネクタと呼び、第1種の製品群から成っております。

[ハウジング]

名称	型番
96極キャップアセンブリ	353220-6
126極キャップアセンブリ	353222-6
30極プラグアセンブリ	353217-4
32極プラグアセンブリ・Aタイプ	353212-5
32極プラグアセンブリ・Bタイプ	353213-6
32極プラグアセンブリ・Cタイプ	353214-2

Fig. 1a

[コンタクト]

○印：適用、×印：適用外

名称	型番	適用電線			
		線種	0.3	0.5	0.85
.040 II "S"リセプタクルコンタクト (すずめっき)	175265-1	線種	0.3	0.5	0.85
		CAVUS	○	○	○
		CAVS/AVSS	○	○	○
		AVS	○	○	×
.070 II "S"リセプタクルコンタクト (すずめっき)	175268-1	線種	0.3	0.5	0.85
		CAVUS	○	○	○
		CAVS/AVSS	○	○	○
		AVS	○	×	×
.070 II "M"リセプタクルコンタクト (すずめっき)	175269-1	線種	0.5	0.8	1.25
		CAVUS	×	×	○
		CAVS/AVSS	×	○	○
		AVS	○	○	○

Fig. 1b

2.全体図

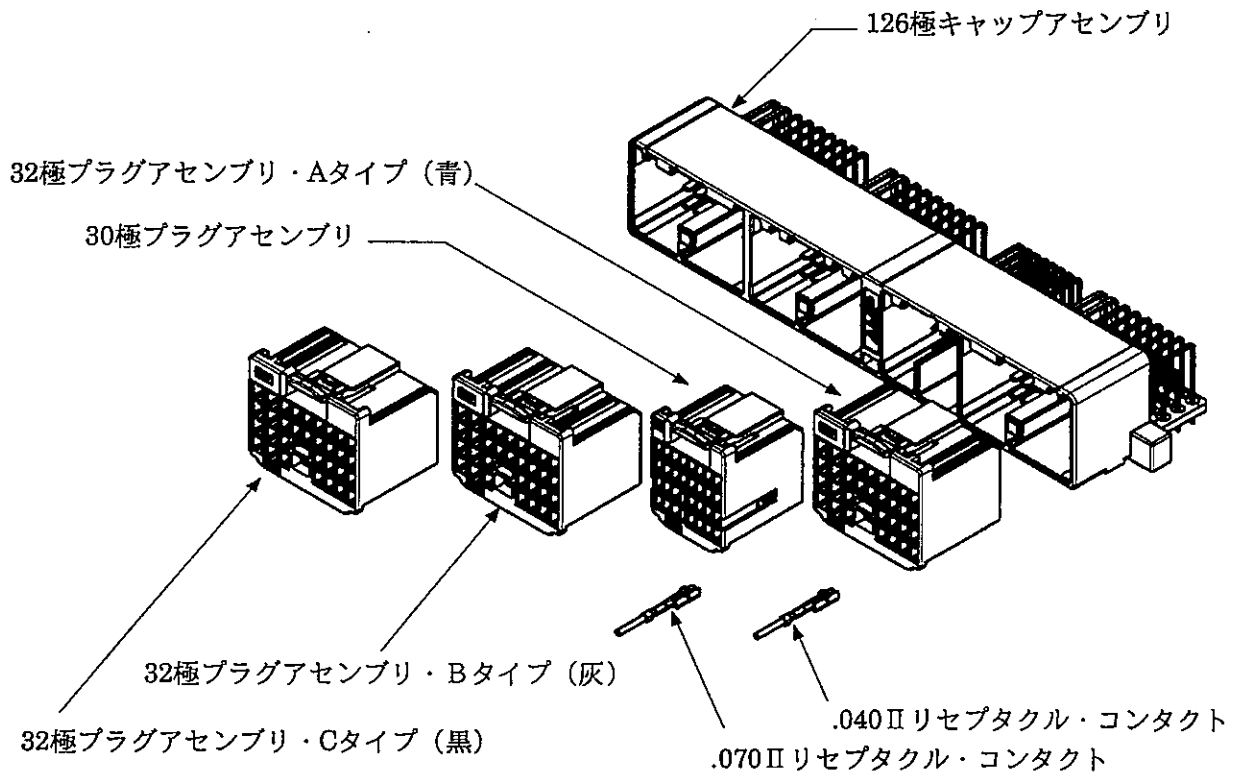


Fig.2a

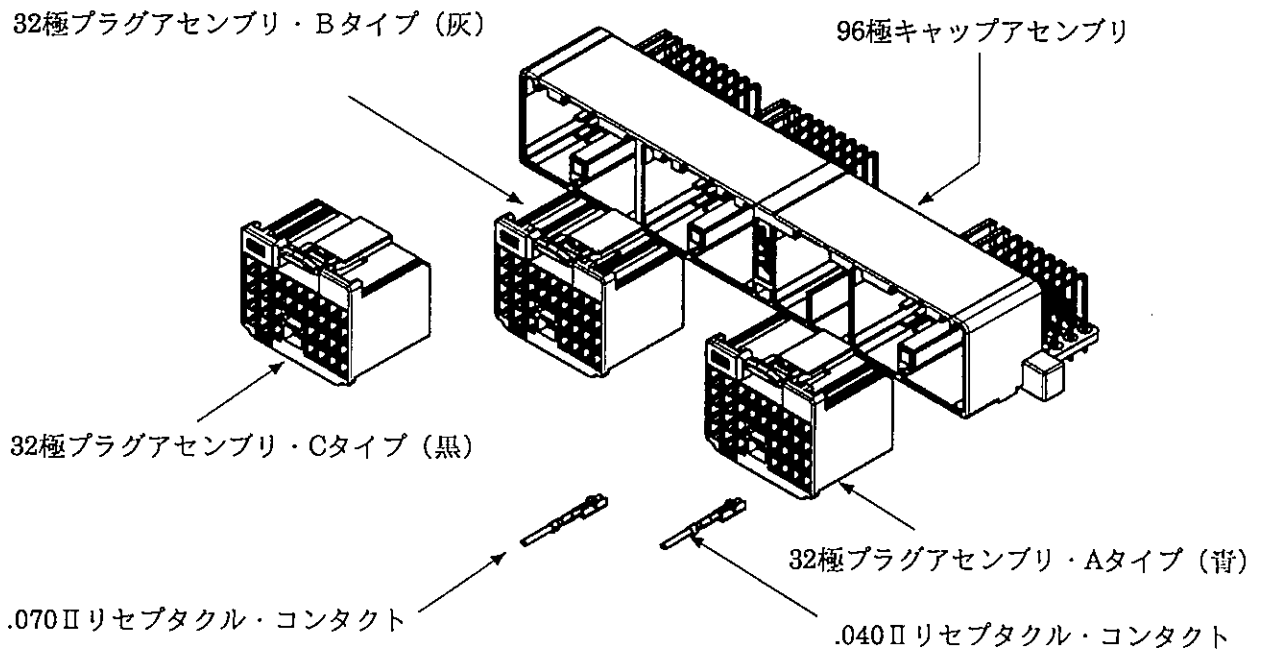


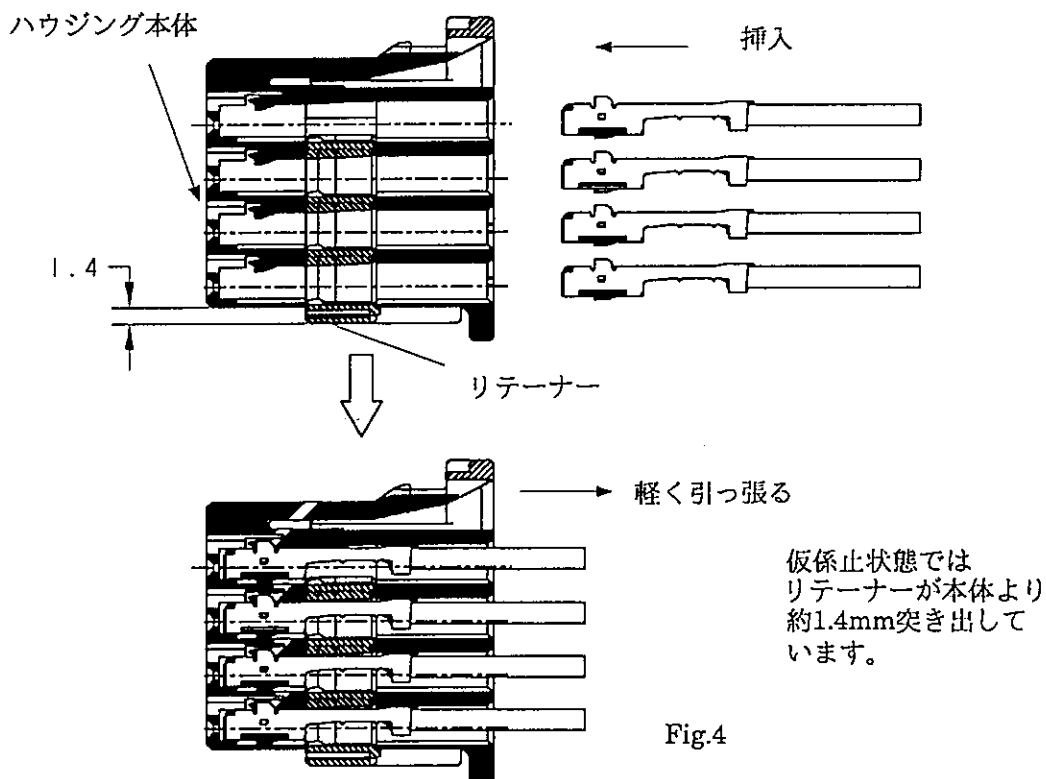
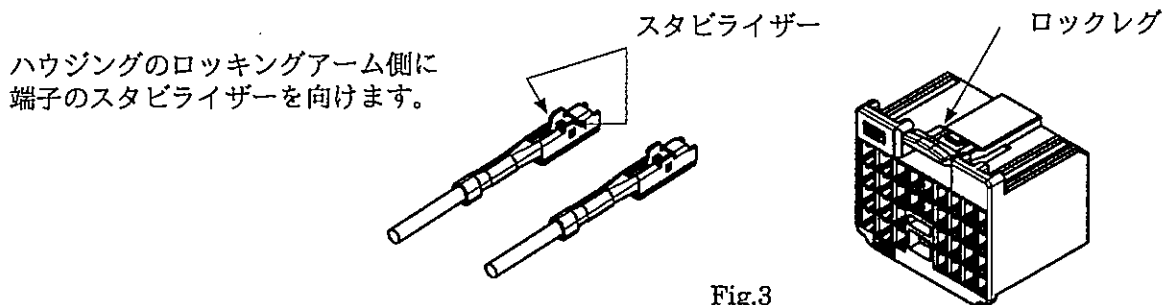
Fig.2b

3.端子の挿入作業

3.1 端子挿入(040II/070II同様)

端子を挿入するときは、リテーナーが仮係止状態であることを確認して下さい。万一リテーナーが本係止になっている場合は、仮係止状態にしてから挿入します。本係止のままだと端子を挿入することが出来ません。(参3.1)

次に端子の方向性を確認した上、端子を指定の穴にカチッという音がする迄挿入し、それ以上挿入できないことを確認してください。さらに、電線を軽く引っ張って端子が抜け出てこないことを確認してください。



3.2 リテーナーの係止方法 (仮係止→本係止)

全ての端子を挿入した後、仮係止状態のリテーナーを図示の如く本係止して下さい。端子が半挿入状態であると、リテーナーを本係止することは出来ません。もう一度端子の半挿入がないかどうか確認してください。

半挿入の端子があった場合には再度2.1に従って端子を挿入して下さい。

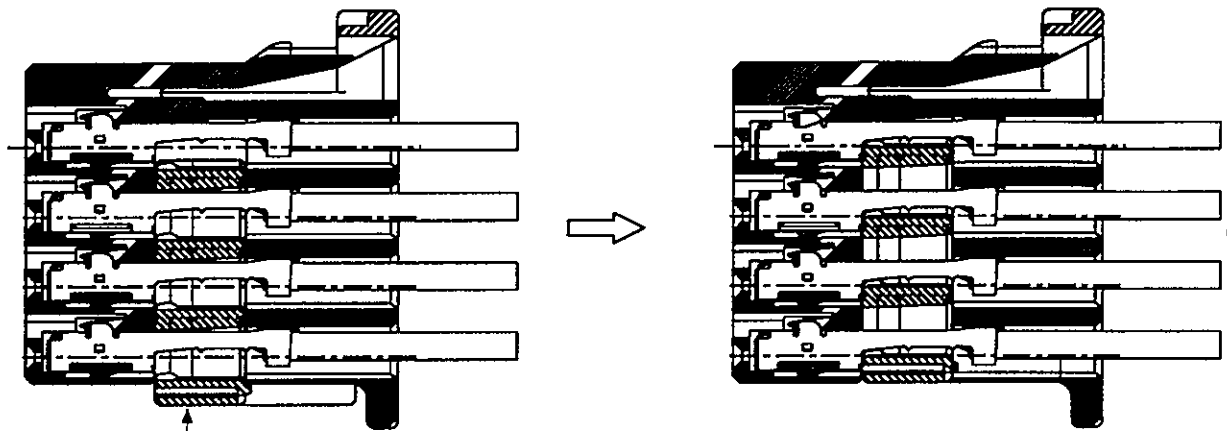
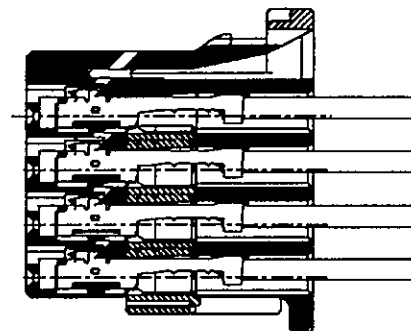


Fig.5

押す
(仮係止状態)

(本係止状態)



(半挿入状態)

Fig.6

また、万一初めからリテーナーが脱落しているものがありましたら、使わずにリテーナーが正しく装着されているものを使ってください。

以上でコネクタ組み付けが完了致します。

4.端子の抜き方

4.1 リテーナーの解除 (本係止→仮係止)

端子を引き抜くときには、リテーナーを仮係止状態にしてから、引き抜きます。本係止のままだと、端子を引き抜くことは出来ません。

リテーナーのドライバー挿入部 (2箇所マーク付) に1.2mmの時計ドライバーを下図のごとく挿入して、本係止から仮係止状態にしてください。(※)

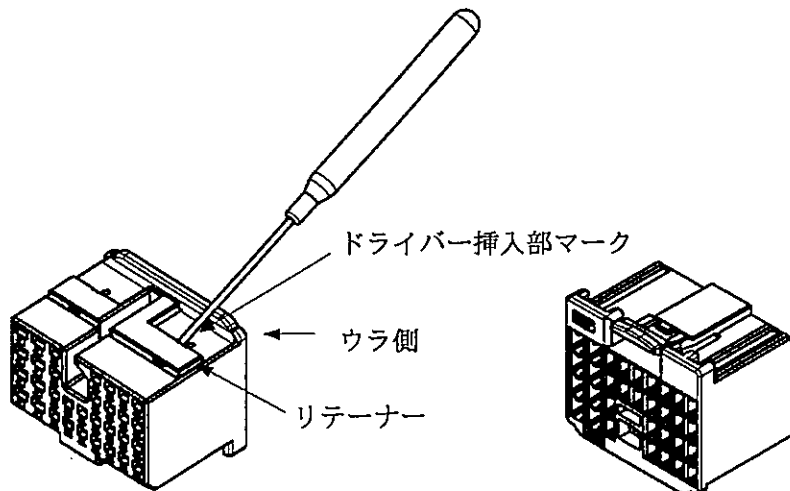
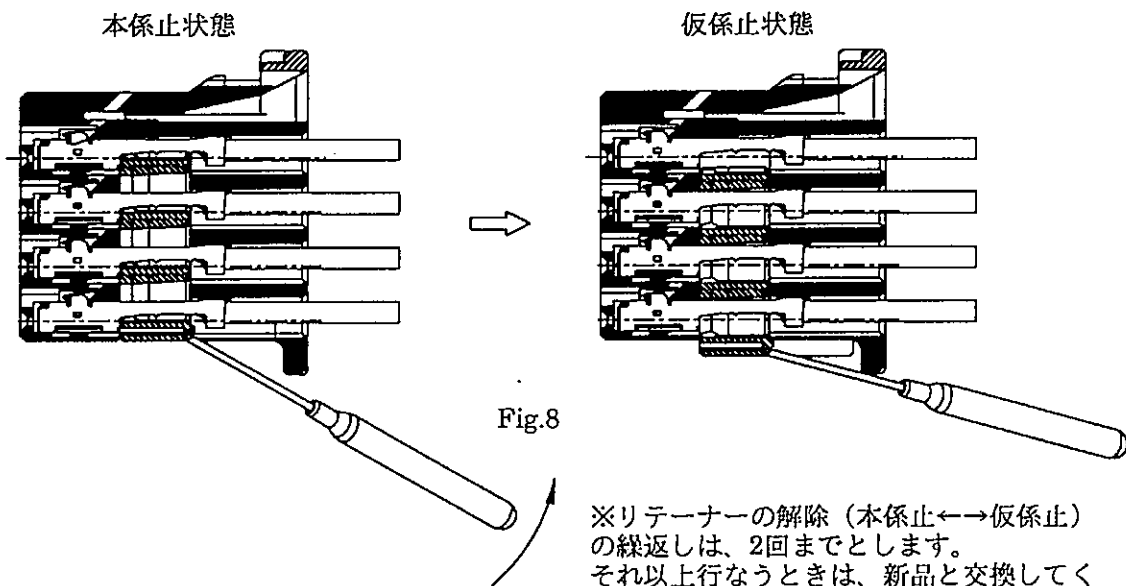


Fig.7



仮係止状態では、リテーナーがハウジング本体から約1.4mm突出した状態になります。片浮しない様に2ヶ所とも確実に解除してください。

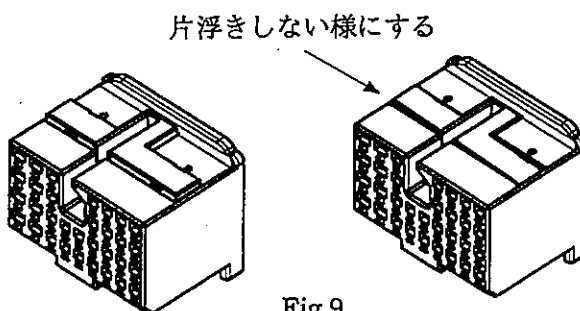
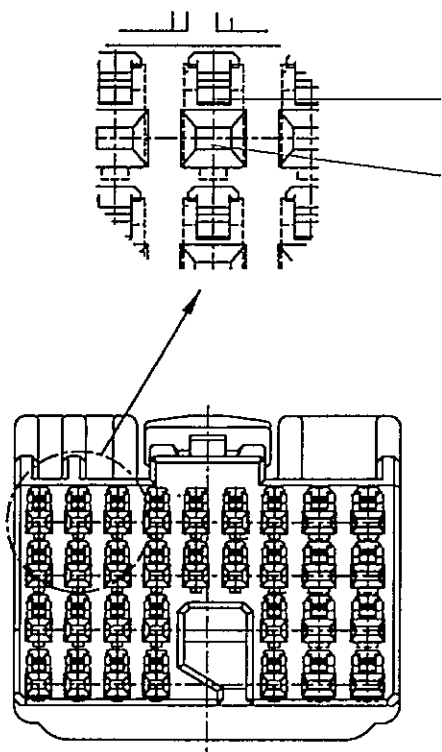


Fig.9

(リテーナー仮係止状態)

4.2 端子の引抜き

次に図の如く、ランスを1.2mmの時計ドライバーで押し上げながら、電線を引っ張って、端子を引き抜きます。(参8. 引抜き治具リスト)



この穴に精密ドライバーを挿入し、ランスを解除して下さい。

この穴には、絶対にドライバー等を差し込んではいけません。端子のバネ部を破壊する恐れがあります。

Fig.10

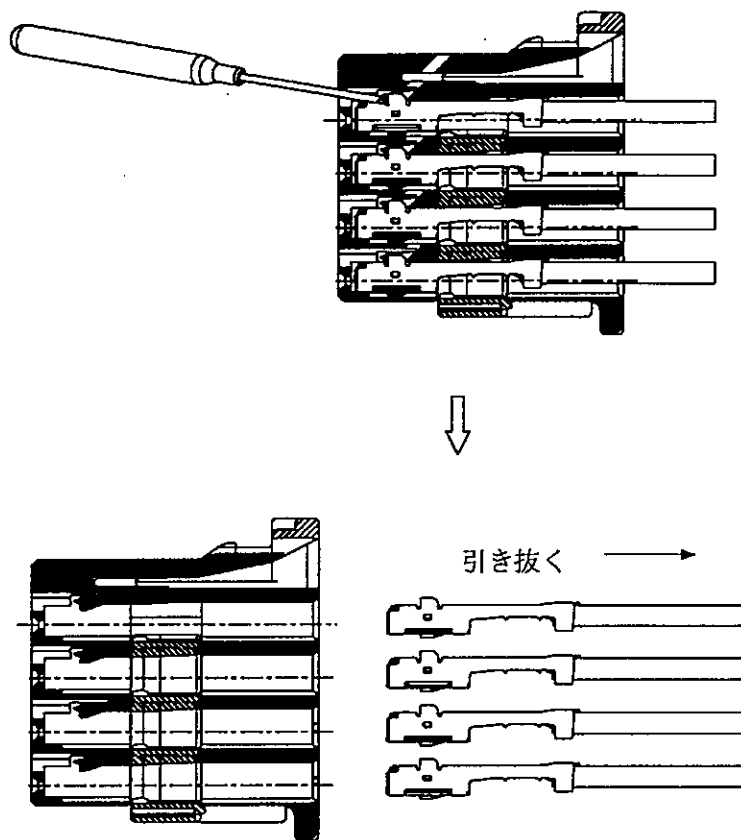


Fig.11

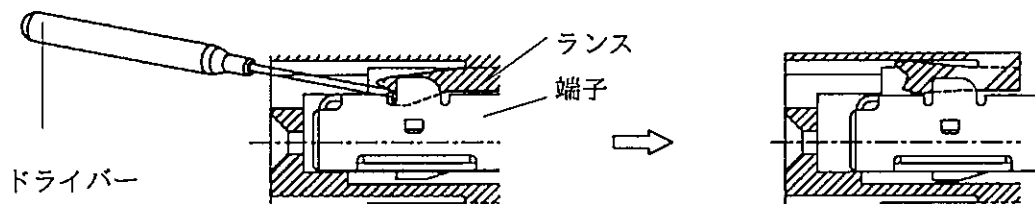


Fig.12

端子をランスから確実に解除してから端子を引き抜いて下さい。ムリに引き抜くとランスを破壊する恐れがあります。

誤って1.2mmの時計ドライバーを端子に挿入してしまった場合には、必ず端子を交換して下さい。

5. その他の注意事項

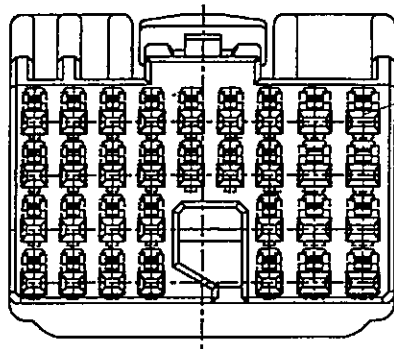
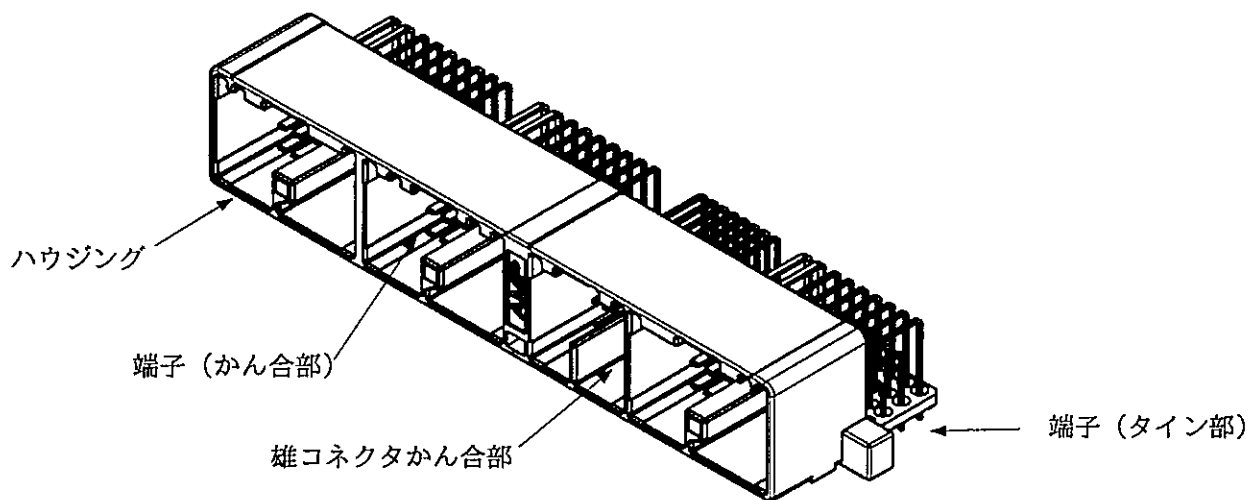


Fig.13

この四角間口の中には、メス端子が入っています。
この中への異物の混入は絶対しないで下さい。
もし、異物の混入が認められた場合には必ずメス端子を交換して下さい。その際には4.1-4.2に従って作業を行なって下さい。

6. 基板取り付けまで下記項目について、取扱注意して下さい。



6.1 端子 (かん合部・タイン部) を変形させないこと。

6.2 端子にキズを付けないこと。

6.3 ハウジングを破損変形させないこと。

6.4 かん合部に異物の混入なきこと。

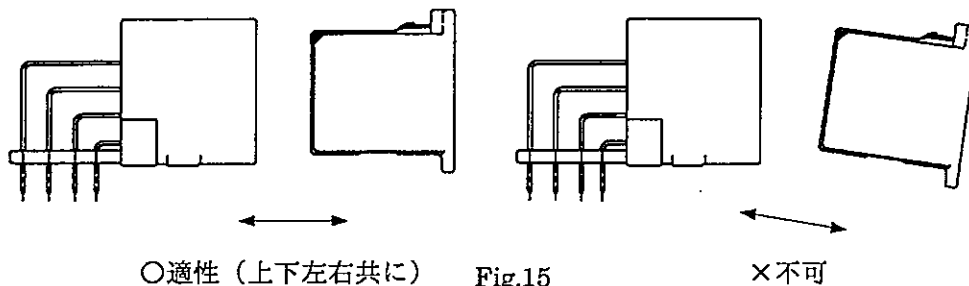
6.5 適正なネジ及び締め付けトルクにて基板に取り付けること。

(推奨ネジ……JISB1115, B1122タッピンネジ、なべ2種、呼び径3、
長さ6mm以下、[締め付けトルク…0.4N・m(4kgf・cm)以下])

6.6 はんだ付 (熱) において、端子及びハウジングに変色・変形なきこと。

7.コネクタ挿抜時、下記項目について注意してください。

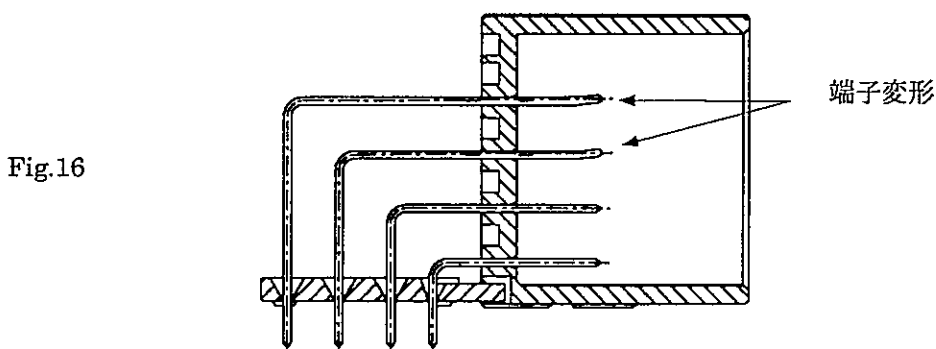
7.1 強引な挿抜をしないこと。(こじらないで、まっすぐに挿抜すること)



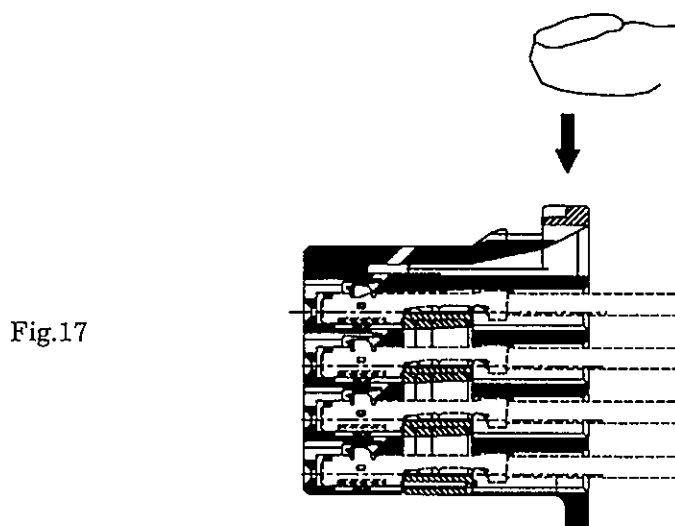
7.2 かん合部には、指定コネクタ以外挿入しないこと。(ドライバー・治具等)

7.3 端子が変形及びキズが付いている場合、コネクタは使用不可

(絶対に手直しはせず、コネクタを取り替えてください。)



7.4 コネクタ引抜きの際、ロックングレバーを完全に押してから引き抜くこと。



8.取扱において、下記不具合が発生した場合、コネクタを使用せず新しいコネクタに取り替え使用してください。

8.1 端子変形 (かん合部・タイン部)

8.2 端子キズ付

8.3 端子変色

8.4ハウジング破損及び変形

8.5ハウジング変色

8.6 かん合部異物混入

9.040 II/.070 II 端子の引抜き治具リスト

製品名	工具NO.	取扱説明書NO.
.040 II 端子	755430-1	IS 288J
.070 II 端子	755430-2	IS 287J

Fig.18